

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M202	スマート農業活用		学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月	
科目の概要	・スマート農機を使いこなすための基本となる植物の生理、光合成や新たに導入した装置の計測データの内容と解析方法を学ぶ。									
講師名	総合農業試験場職員、民間企業担当者 農業者、農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・データの内容と解析方法を習得させる。 ・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。									
使用教材	・講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	各講座ごとにレポートにて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	植物の生理現象と園芸施設の複合環境制御について						2	総合農業試験場 担当		
2										
3	アグリネットシステムについて（果樹ハウス）						2	民間企業		
4										
5	スマート農業の実践 農業経営のスマート化 ・ICTを活用した農業経営管理技術の効率化						2	農業者		
6										
7	スマート農業の実践における 土づくり、微生物の働きについて						2	民間企業		
8										
9	スマート農業の実践 自動収穫ロボット開発及び実証実験ハウス栽培の取り組みについて						2	民間企業		
10										
11	植物の光合成働きと園芸施設の複合環境制御について（講義）						2	民間企業		
12										
13	農業大学校の施設園芸ハウス複合環境制御装置データ分析と活用(机上演習)						2	民間企業		
14										
15	試験(レポート)						1	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M203	農政施策	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～11月
科目の概要	・本県のJAグループの取り組み、農業長期展望、担い手、GAP、農産物流通、販売などの現状と課題、主要施策等について広く学習する。								
講師名	JA宮崎中央会、JA宮崎経済連 担当者 農政企画課、農業担い手対策課、畑かん営農推進室、農業流通ブランド課、担当者						実務経験のある教員等による授業科目		
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	本県農業・農村の現状 宮崎県第八次農業・農村振興長期計画 試験①					2	農政企画課		
2									
3	本県の農業担い手の確保と育成対策 試験②					2	農業担い手対策課 担い手確保担当		
4									
5	本県の畑かん営農の現状、振興対策及び水利用 試験③					2	農村計画課 畑かん営農推進室		
6									
7	本県のGAPの取り組みについての現状、課題、振興対策 試験④					2	農業流通ブランド課 食の安全推進担当		
8									
9	JA営農指導の現状と取り組み、営農指導員の活動について 試験⑤					2	JA宮崎中央会		
10									
11	本県の農畜産物流通、及び地域卸売市場における取引の現状と課題、対策 試験⑥					2	農業流通ブランド課 輸出・流通担当		
12									
13	流通・消費動向について 市場取引の方法と機能・販売形態について 試験⑦					2	JA宮崎経済連		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M204	農業生産工程管理Ⅱ	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月	
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。									
講師名	宮崎大学農学部職員 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。 ・GAP維持・更新審査にて対応できる知識を習得させる。									
使用教材	・講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	GAPの基礎①					2	宮崎大学 農学部 講師			
2	GAPの基礎②									
3	GAPの認証と導入					2				
4	ひなたGAPの概要									
5	リスク分析の考え方					2				
6	生産工程におけるリスク分析									
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					2				
8	労働安全のリスク分析									
9	ひなたGAPチェックリストの解説①					2				
10	ひなたGAPチェックリストの解説②									
11	GAP現地研修（農大校ほ場）					2				
12	GAP現地研修（農大校ほ場）									
13	認証制GAPの解説①					2				
14	認証制GAPの解説②									
15	試験					1				農業大学校指導職員
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	卒業論文 (作物)			学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	9月～1月
科目の概要	・地域農業及び自家経営におけるテーマを設定し、そのテーマにそつた的確な計画を作成する。その計画に基づき、実践・調査・まとめ等を実施する。その結果を卒業論文としてまとめる。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・プロジェクトの計画、実施、調査、卒業論文としてのまとめ等を通じて、課題解決能力及び農業技術・経営管理能力の向上等農業担い手としての総合的な能力を習得する。								
使用教材									
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研究内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	地域農業及び自家経営の現状に鑑み、テーマの設定がふさわしいかの視点で評価。	試験区の設定や調査項目等研究内容が課題解決のための内容になっているか、また、研究内容に創意工夫が見られるか等の視点で評価。	データを正確に取得しているか、課題解決にむけたデータの整理が行われているかの視点で評価。	データの分析・検討が的確に実施できているか、また、結果を地域農業及び自家経営に有効に展開できるか等の視点で評価。	主体的に取り組んでいるか、また、他の学生や職員等と連携しながら目標達成に向けた取組を行っているかの視点で評価。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	卒業論文の進め方 (オリエンテーション)						1		
2～5	テーマの設定と研究内容の検討						4		
6～40	研究内容に沿った実践・調査						35		
40～50	データの分析・検討						10		
51～60	卒業論文としてのまとめ						10		
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	卒業論文			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	9月～1月
科目の概要	・データ整理に基づいた卒業論文の作成をする。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・卒業論文に取り組んだ動機や実施内容を整理し、調査結果から成果を導きだし卒業論文を提出する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研究内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A (良い) 10点 B (普通) 5点 C (悪い) 3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査データが記録され、データの分析ができていないかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A (良い) 30点 B (普通) 20点 C (悪い) 10点			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～2	卒業論文の作成に当たっての注意						2	講義	
3～60	卒業論文の作成						58	実習	
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	卒業論文			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	9月～1月
科目の概要	・データ整理に基づいた卒業論文を作成する。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・卒業論文に取り組んだ動機や実施内容を整理し、調査結果から成果を導きだし卒業論文を提出する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研究内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A (良い) 10点 B (普通) 5点 C (悪い) 3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査データが記録され、データの分析ができているかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A (良い) 30点 B (普通) 20点 C (悪い) 10点			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～2	卒業論文の作成に当たっての注意 (講義)						2	農業大学校指導職員	
3～60	卒業論文の作成 (演習)						58		
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	卒業論文			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	9月～1月
科目の概要	・データ整理に基づいた卒業論文の作成する。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	・卒業論文に取り組んだ動機や実施内容を整理し、調査結果から成果を導きだし卒業論文を提出する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研究内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A (良い) 10点 B (普通) 5点 C (悪い) 3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査データが記録され、データの分析ができているかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A (良い) 30点 B (普通) 20点 C (悪い) 10点			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～2	卒業論文の作成に当たっての注意						2	講義	
3～60	卒業論文の作成						58	実習	
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	卒業論文			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	9月～1月
科目の概要	・データ整理に基づいた卒業論文を作成する。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員、農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・卒業論文に取り組んだ動機や実施内容を整理し、調査結果から成果を導きだし卒業論文を提出する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研究内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	課題の背景が整理されているかを評定する。 A (良い) 10点 B (普通) 5点 C (悪い) 3点	課題設定と実施内容の整合性がとれているかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査データが記録され、データの分析ができているかを評定する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	調査結果やまとめ、残された課題など論点が整理できているかを評価する。 A (良い) 20点 B (普通) 15点 C (悪い) 10点	課題設定から論点整理まで自主的・主体的にできているかを評定する。 A (良い) 30点 B (普通) 20点 C (悪い) 10点			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～2	卒業論文の作成に当たっての注意 (講義)						2	総合農業試験場茶業支場職員	
3～60	卒業論文の作成 (演習)						58	農業大学校指導職員	
授業時間外に必要な学修	卒業論文の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は再作成させる								



令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻実習 (作物)			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～12月	
科目の概要	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。									
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)			学習態度 (減点)			
	基準	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						時間	備 考		
通年	作物専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査						450			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻実習 (野菜)			学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～2月
科目の概要	・野菜専攻において栽培する品目の栽培技術の習得と各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)			学習態度 (減点)		
	基準	野菜専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	野菜専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
通年	野菜専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査と分析、まとめ						450		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻実習（果樹）			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～12月
科目の概要	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自の担当品目について作業契約作成及び販売まで実践できるようにする。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		学習態度（減点）			
	基準	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	果樹専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					450			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻実習 (花)			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～12月
科目の概要	・花専攻において栽培する品目の栽培技術、開花調節技術の習得と各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・花専攻において栽培する品目の栽培技術を習得、開花調節技術を習得するとともに、各自のプロジェクト発表を行う。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)	学習態度 (▲20点)				
	基準	花専攻で栽培する品目の生育・開花特性、鮮度保持技術、開花調節技術を理解しているかを細かくチェックし評定する。	プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌の提出</li> <li>提出している 0点</li> <li>提出していない 20点</li> <li>時々提出 10点</li> <li>・日誌の内容</li> <li>正確に記述 0点</li> <li>内容に乏しい 10点</li> </ul>				
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
通年	花専攻で栽培する品目の栽培技術、開花調節技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の栽培技術、鮮度保持技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査と分析、まとめ						450		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

	専攻実習 (茶)			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	15	時間数	450	開講時期	4月～1月	
科目の概要	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。									
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)	学習態度 (減点)					
	基準	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。					
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						時間	備 考		
通年	茶専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査						450			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻特別実習 (作物)			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月
科目の概要	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)			学習態度 (減点)		
	基準	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
通年	作物専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得						120		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻特別実習（野菜）			学科名	農学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月
科目の概要	・野菜専攻において栽培する品目の栽培技術と出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・野菜専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、実践的な管理技術及び出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		学習態度（減点）			
	基準	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
通年	野菜専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得						120		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻特別実習 (果樹)			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月
科目の概要	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)			学習態度 (減点)		
	基準	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
通年	果樹専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得						120		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								



## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻特別実習 (花)			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月
科目の概要	・花専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・花専攻において栽培する品目の栽培技術、鮮度保持技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)	学習態度 (▲20点)				
	基準	花専攻で栽培する品目の生育・開花特性、鮮度保持技術、開花調節技術を理解しているかを細かくチェックし評定する。	プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌の提出</li> <li>提出している 0点</li> <li>提出していない 20点</li> <li>時々提出 10点</li> <li>・日誌の内容</li> <li>正確に記述 0点</li> <li>内容に乏しい 10点</li> </ul>				
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
通年	花き専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 鮮度保持技術の習得 出荷調整技術の習得						120		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	専攻特別実習 (茶)			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月	
科目の概要	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術、出荷調整について学ぶ。									
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)	学習態度 (減点)					
	基準	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。					
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						時間	備 考		
通年	茶専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得						120			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

	作物の栽培管理・営農計画	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・水稲、豆類、葉たばこ、露地野菜の特性と栽培技術の理論及び営農計画の作成について学修する。 ・特に、水稲の重要な栽培技術である雑草防除、病虫害防除のための技術を中心に学修する。□								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・水稲、豆類、葉たばこ、露地野菜の特性と栽培技術の理論の習得及び営農計画を作成する。。□								
使用教材	作物学の基礎 I (農文教) 作物の病虫害診断 (農文教) ミニ植物図鑑 (全国農村教育協会) 講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			学習態度 (減点)	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理					1	農業大学校指導職員		
2	水稲栽培における雑草防除 (雑草の種類、防除方法ほか)					1			
3	水稲栽培における雑草防除 (除草剤)					1			
4	水稲栽培における病虫害防除 (主要な病気と防除方法)					1			
5	水稲栽培における病虫害防除 (主要な害虫と防除方法)					1			
6	水稲栽培における先進的な技術と経営 (ICT技術、経営費ほか)					1			
7	豆類の栽培 (栽培方法、病虫害ほか)					1			
8	葉たばこ栽培 (栽培方法、病虫害、加工ほか)					1			
9	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理					1			
10	露地野菜の栽培管理					1			
11	露地野菜の栽培管理					1			
12	露地野菜の栽培管理					1			
13	露地野菜の栽培管理					1			
14	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理					1			
15	試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	野菜の流通・販売			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・野菜の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外における野菜の流通動向及び消費動向について理解する。</li> <li>・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。</li> </ul>								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり：50点 提出なし：0点</li> <li>・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の評定による。20点を上限として除する。</li> </ul>	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	国内外の野菜の流通・販売について						1	講義	
2	国内外の野菜の流通・販売について						1	講義	
3	国内外の野菜の流通・販売について						1	講義	
4	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
5	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
6	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
7	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
8	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
9	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
10	野菜の販売の実際						1	視察研修	
11	野菜の販売の実際						1	視察研修	
12	野菜の販売の実際						1	視察研修	
13	野菜の販売の実際						1	視察研修	
14	野菜の販売の実際						1	視察研修	
15	野菜の販売の実際						1	視察研修	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	果樹の栽培管理・営農計画			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理、営農計画の作成									
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・プロジェクト学習に選定した品目の施肥、防除、出荷調整対策及び営農計画を作成する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理及びプロジェクト学習成果について適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 95%以上 1.0</li> <li>・ 90%以上95%未満 0.9</li> <li>・ 80%以上90%未満 0.8</li> <li>・ 70%以上80%未満 0.7</li> <li>・ 70%未満 0</li> </ul>			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	果樹における病害虫管理（総論）						1			
2	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
3	マンゴーの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
4	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
5	みかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
6	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
7	ライチの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
8	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
9	きんかんの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
10	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
11	日向夏の栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
12	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
13	ぶどうの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
14	果樹プロジェクト学習成果発表						1			
15	果樹プロジェクト学習成果発表						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	花きの栽培管理・営農計画			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理、営農計画の作成									
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・プロジェクト学習に選定した品目の施肥、防除、鮮度保持対策及び営農計画を作成する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（▲20点）		
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の施肥、病害虫防除、切り花方法、鮮度保持対策が適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			各授業において受講態度をA・B・Cの3段階で評価する。 A：問題のない受講態度 0点 B：注意を受けたが改善 5点 C：改善できていない、授業を妨害点 20点		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持						1			
2	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持						1			
3	プロジェクト学習品目の時期別切り前と鮮度保持						1			
4	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法						1			
5	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法						1			
6	球根植物の球根養成方法と堀上、乾燥方法						1			
7	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御						1			
8	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御						1			
9	栄養繁殖品目の挿し芽方法と環境制御						1			
10	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法						1			
11	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法						1			
12	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法						1			
13	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法						1			
14	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法						1			
15	種子繁殖品目のは種方法と環境制御及び育苗方法						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B206	G A P 演習 II		学科名	農学科	学年	2	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～12月	
科目の概要	・専攻実習において、G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検・改善をとおして、G A P の内容を理解し実践手法を学ぶ。									
講師名	宮崎大学農学部 講師 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目			
到達目標	・G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検、改善方法を習得させる。 ・G A P 維持・更新審査に対応できる知識を習得させる。									
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針 等									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			学習態度 (減点)		
	基準	専攻毎のG A P 基準書、運営マニュアルに即した実践、基準書の自己点検、改善の取り組み、審査対応などG A P 実践・内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	G A P 基準書に基づく自己点検① (各専攻毎)					3	農業大学校指導職員			
2										
3										
4	G A P 基準書に基づく自己点検② (各専攻毎)					3	農業大学校指導職員			
5										
6										
7	A S I A G A P 内部審査					6	宮崎大学農学部 講師 農業大学校指導職員			
8										
9										
10										
11										
12										
13	G A P 基準書に基づく自己点検③ (各専攻毎)					3	農業大学校指導職員			
14										
15										
16	G A P 審査受審 (ひなたG A P)					6	農業大学校指導職員			
17										
18										
19										
20										
21										
22	G A P 審査受審 (A S I A G A P)					6	農業大学校指導職員			
23										
24										
25										
26										
27										
28	G A P 審査後改善点は正自己点検 (A S I A G A P、ひなたG A P)					3	農業大学校指導職員			
29										
30										
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B207	資格取得対策Ⅱ（農業簿記、	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・学生が受験可能な、危険物取扱者や毒物劇物取扱責任者の資格を取得するために必要な知識を学ぶ								
講師名	農業大学校農学科指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業簿記2級、3級の資格取得								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義のレポートを作成し、その内容に評価する。 提出：50点 未提出0点 内容 良40点 普通 20 悪10点 また、試験を受験し資格取得を目指す。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	試験対策①					3	農業大学校指導職員		
2	試験対策②								
3	試験対策③								
4	試験対策④					3			
5	試験対策⑤								
6	試験対策⑥								
7	試験対策⑦					2			
8	試験対策⑧								
9	試験対策⑨					3			
10	試験対策⑩								
11	試験対策⑪								
12	試験対策⑫					3			
13	試験対策⑬								
14	試験対策⑭								
15	農業簿記 検定試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	実施しない								



## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	作物の流通・販売			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	・作物の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・国内外における果樹の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり：50点 提出なし：0点</li> <li>・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の作物の流通・販売について					1	講義		
2	国内外の作物の流通・販売について					1	講義		
3	国内外の作物の流通・販売について					1	講義		
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					1	視察研修		
5	市場・仲卸の役割と流通の実際					1	視察研修		
6	市場・仲卸の役割と流通の実際					1	視察研修		
7	市場・仲卸の役割と流通の実際					1	視察研修		
8	市場・仲卸の役割と流通の実際					1	視察研修		
9	市場・仲卸の役割と流通の実際					1	視察研修		
10	作物の販売の実際					1	視察研修		
11	作物の販売の実際					1	視察研修		
12	作物の販売の実際					1	視察研修		
13	作物の販売の実際					1	視察研修		
14	作物の販売の実際					1	視察研修		
15	作物の販売の実際					1	視察研修		
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	施設野菜の栽培管理・営農計画			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理、営農計画の作成									
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。 ・プロジェクト学習に選定した品目について営農計画を作成する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理及びプロジェクト学習成果について適切に実践されているかチェックし、100点満点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1	農業大学校指導職員		
2	スイカの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
3	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
4	トマトの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
5	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
6	キュウリの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
7	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
8	ピーマンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
9	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
10	イチゴの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
11	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
12	メロンの栽培管理技術とプロジェクト学習成果						1			
13	野菜プロジェクト学習成果発表						1			
14	野菜プロジェクト学習成果発表						1			
15	試験						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	果樹の流通・販売			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～1月
科目の概要	・果樹の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大 学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外における果樹の流通動向及び消費動向について理解する。</li> <li>・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。</li> </ul>								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書 (80点)			出席率 (20点)			学習態度 (減点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり：50点 提出なし：0点</li> <li>・内容 A (良い) 30点 B (普通) 15点 C (悪い) 5点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	国内外の果樹の流通・販売について						1	講義	
2	国内外の果樹の流通・販売について						1	講義	
3	国内外の果樹の流通・販売について						1	講義	
4	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
5	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
6	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
7	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
8	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
9	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
10	果樹の販売の実際						1	視察研修	
11	果樹の販売の実際						1	視察研修	
12	果樹の販売の実際						1	視察研修	
13	果樹の販売の実際						1	視察研修	
14	果樹の販売の実際						1	視察研修	
15	果樹の販売の実際						1	視察研修	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	花きの流通・販売			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・花きの流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外における花きの流通動向及び消費動向について理解する。</li> <li>・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。</li> </ul>								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書 (80点)			出席率 (20点)			学習態度 (▲20点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり：50点 提出なし：0点</li> <li>・内容 A (良い) 30点 B (普通) 15点 C (悪い) 5点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			・講師の評定による。20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	国内外の花きの流通・販売について						1	講義	
2	国内外の花きの流通・販売について						1	講義	
3	国内外の花きの流通・販売について						1	講義	
4	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
5	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
6	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
7	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
8	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
9	市場・仲卸の役割と流通の実際						1	視察研修	
10	花きの販売の実際						1	視察研修	
11	花きの販売の実際						1	視察研修	
12	花きの販売の実際						1	視察研修	
13	花きの販売の実際						1	視察研修	
14	花きの販売の実際						1	視察研修	
15	花きの販売の実際						1	視察研修	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	茶の流通・販売			学科名	農学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～1月
科目の概要	・茶の流通・販売について実践的に学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員、農業大学校指導職員 市場・仲卸関係者、専門店・量販店・直売所関係者						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・国内外における茶の流通動向及び消費動向について理解する。 ・市場・仲卸の役割や販売店の実際について理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり：50点 提出なし：0点</li> <li>・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	国内外の茶の流通・販売について					3	農業大学校指導職員 (講義)		
2	国内外の茶の流通・販売について								
3	国内外の茶の流通・販売について								
4	市場・仲卸の役割と流通の実際					6	農業大学校指導職員 専門店・量販店・直売 所等 (校外学習)		
5	市場・仲卸の役割と流通の実際								
6	市場・仲卸の役割と流通の実際								
7	市場・仲卸の役割と流通の実際								
8	市場・仲卸の役割と流通の実際								
9	市場・仲卸の役割と流通の実際								
10	茶の販売の実際					6	農業大学校指導職員 専門店・量販店・直売 所等 (校外学習)		
11	茶の販売の実際								
12	茶の販売の実際								
13	茶の販売の実際								
14	茶の販売の実際								
15	茶の販売の実際								
授業時間外に 必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B210	法人経営	学科名	農学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～10月	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人経営の仕組みや制度について学ぶ。</li> <li>・ 現地研修において、法人経営の実際を学ぶ。</li> </ul>									
講師名	民間企業、社会保険労務士、農業法人 農業大学校 指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目			
到達目標	農業法人の仕組みや制度について学習するとともに、県内法人の講義や視察研修を通じて法人経営への理解を深める。									
使用教材	・ 講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験・レポートにより理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 95%以上 1.0</li> <li>・ 90%以上95%未満 0.9</li> <li>・ 80%以上90%未満 0.8</li> <li>・ 70%以上80%未満 0.7</li> <li>・ 70%未満 0</li> </ul>			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	農業経営の法人化とメリット					2	民間企業職員			
2	農業法人の種類と設立									
3	宮崎県内の農業法人の状況									
4	集落営農の法人化 試験									
5	農業法人における労務管理について					2	社会保険労務士			
6										
7	法人経営の実際（講義）					2	農業生産法人代表			
8										
9	試験・レポート作成					1	農業大学校指導職員			
10	県内先進農業法人調査研修					3	県内農業法人 農業大学校指導職員			
11										
12										
13	県内先進農業法人調査研修					3				
14										
15										
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	農業指導演習			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期・後期	
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～12月	
科目の概要	・2年生がプロジェクト学習に選定した品目の栽培管理について指導できるよう演習する。									
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・2年生がプロジェクト学習に選定した品目の栽培特性や栽培管理を1年生に指導できる。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点 ▲20点）		
	基準	プロジェクト学習に選定した品目の栽培管理を理解し、1年生に適切に指導できているかをチェックし、100点満点の評価を行うが80%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			授業態度をA・B・Cの3段階で評価する。 A：問題のない受講態度 1.0点 B：注意を受けたが改善 0.5点 C：改善なし、授業を妨害 0点 (総合点×出席時数)÷30を評点とする。小数点1位切り捨て。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	農業指導演習方法と注意事項						1			
2	農業指導演習方法と注意事項						1			
3	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
4	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
5	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
6	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
7	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
8	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
9	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
10	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
11	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
12	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
13	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
14	2年生がプロジェクト選定品目の栽培管理を1年生に指導						1			
15	農業指導演習の反省と助言						1			
授業時間外に必要な学修	特になし。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B212	育種と繁殖	学科名	農学科	学年	2	学期	全期				
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月			
科目の概要	・専攻実習において、GAP基準書、運営マニュアルの自己点検・改善をとおして、GAPの内容を理解し実践手法を学ぶ。											
講師名	宮崎大学農学部職員 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目					
到達目標	・GAP基準書、運営マニュアルの自己点検、改善方法を習得させる。 ・GAP維持・更新審査に対応できる知識を習得させる。											
使用教材	講師準備資料、宮崎県経営管理指針 等											
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）				
	基準	専攻毎のGAP基準書、運営マニュアルに即した実践、基準書の自己点検、改善の取り組み、審査対応などGAP実践・内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。				
授業の計画（授業の回数やスケジュール）												
回	内 容					時間	備 考					
1	新品種の作出、品種登録、種苗法 農業試験場で作出された品種と育成 試験①					3	総合農業試験場 職員					
2												
3												
4	野菜の新品種と育成 農業試験場で作出された品種と育成 試験②					3	総合農業試験場 職員					
5												
6												
7	実験器具・実験機器・設備類の操作方法 手指の洗浄					3	農業大学校指導職員					
8	培地の作成（MS培地・H培地・MT培地他）											
9												
10	実体顕微鏡の使い方					3						
11	培養演習 ①											
12												
13	培養演習 ②					3						
14												
15	評価試験											
授業時間外に必要な学修	特になし											
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない											



## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B214	畑かん水田営農演習 (専攻実習時間内)	学科名	農学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	履修(作物 専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・新規導入した農業機械の操作方法、ほ場操作技術について学ぶ。								
講師名	J A 宮崎経済連農機施設課職員 農業機械メーカー 担当者 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	・新規導入した農業機械の操作方法、ほ場操作技術の習得								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識・技術(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	ほ場での操作技術、操作の理解 度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数 とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	田植機					2	J A 宮崎経済連職員 ヤンマー職員 農業大学校指導職員		
2									
3	トラクター52PS 自動操舵					2	J A 宮崎経済連職員 機械メーカー職員 農業大学校指導職員		
4									
5	乾燥機(小麦)					3	J A 宮崎経済連職員 機械メーカー職員 農業大学校指導職員		
6									
7									
8	コンバイン(水稻)					2	J A 宮崎経済連職員 機械メーカー職員 農業大学校指導職員		
9									
10	乾燥機(水稻)					2	J A 宮崎経済連職員 機械メーカー職員 農業大学校指導職員		
11									
12	芋掘り機					2	J A 宮崎経済連職員 機械メーカー職員 農業大学校指導職員		
13									
14	畑かん散水機					2	J A 宮崎経済連職員 機械メーカー職員 農業大学校指導職員		
15									
授業時間外に 必要な学修	特になし								
再試験及び補 習対象の実施 基準	原則して再試験は実施しない								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	茶の歴史・文化			学科名	農学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月	
科目の概要	・お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進を学ぶ。									
講師名	総合農業試験場茶業支場職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・お茶に関する理解を深めるため、歴史と文化や生産・流通・消費、健康増進の知識を習得させる。									
使用教材	日本茶検定公式テキスト日本茶のすべてがわかる本 講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	お茶のプロフィール、成分、淹れ方						1	茶業支場支場長		
2	お茶の健康増進①						1	茶業支場支場長		
3	お茶の健康増進②						1	茶業支場支場長		
4	お茶の歴史と文化①						1	茶業支場支場長		
5	お茶の歴史と文化②						1	茶業支場支場長		
6	本県の茶業史						1	茶業支場支場長		
7	本県の茶業研究						1	茶業支場支場長		
8	世界のお茶の生産・流通・消費						1	茶業支場支場長		
9	日本のお茶の生産・流通・消費						1	茶業支場支場長		
10	本県のお茶の生産・流通・消費						1	茶業支場支場長		
11	お茶の品種育成①						1	茶業支場育種科		
12	お茶の品種育成②						1	茶業支場育種科		
13	お茶の品種①						1	茶業支場育種科		
14	お茶の品種②						1	茶業支場育種科		
15	試験						1	茶業支場支場長		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z201	専攻実習Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	14	時間数	420	開講時期	4月～12月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		受講態度（減点）			
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等			
回	内 容					時間	備 考		
1～50	家畜の飼養管理等					50	4月		
51～100	家畜の飼養管理等					50	5月		
101～170	家畜の飼養管理等					70	6月		
171～240	家畜の飼養管理等					70	7月		
241～310	家畜の飼養管理等					70	9月		
311～380	家畜の飼養管理等					70	10月		
381～400	家畜の飼養管理等					20	11月		
401～420	家畜の飼養管理等					20	12月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z202	専攻特別実習Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～10月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		受講態度（減点）			
	基準	各専攻別に家畜の飼養管理等の実習やプロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～20	家畜の飼養管理等					20	4月		
21～40	家畜の飼養管理等					20	5月		
41～55	家畜の飼養管理等					15	6月		
56～70	家畜の飼養管理等					15	7月		
71～100	家畜の飼養管理等					30	8月		
101～110	家畜の飼養管理等					10	9月		
111～120	家畜の飼養管理等					10	10月		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								

令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y201n	肉用牛・酪農経営 コンサルティング		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	・肉用牛、酪農経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、経営分析指標等と比較し経営診断する技法を学ぶ。								
講師名	・外部講師						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・肉用牛、酪農経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描き、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	肉用牛経営における経営事例研究					1	外部講師		
2	肉用牛経営における経営事例研究					1			
3	肉用牛経営における経営事例研究 試験①					1			
4	酪農経営における経営事例研究					1			
5	酪農経営における経営事例研究					1			
6	酪農経営における経営事例研究 試験②					1			
7	肉用牛経営の分析と診断					1			
8	肉用牛経営の分析と診断					1			
9	肉用牛経営の分析と診断					1			
10	肉用牛経営の分析と診断					1			
11	肉用牛経営の分析と診断 試験③					1			
12	酪農経営の分析と診断					1			
13	酪農経営の分析と診断					1			
14	酪農経営の分析と診断					1			
15	酪農経営の分析と診断 試験④					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y201b	養豚経営 コンサルティング	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・養豚経営における技術的指標、経営的指標の各項目について学ぶとともに、また、養豚経営における将来像を具体化するため、我が家の経営または経営事例をもとに、現状を把握し、将来のあるべき経営像を描かせ、その到達目標を実現すべく長期計画を樹立させるとともにその手順を立案させる。									
講師名	・農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・経営分析指標等と比較し経営診断する能力を習得させる。									
使用教材	・養豚の教科書 ・講師作成資料 ・わかりやすい養豚場実用ハンドブック									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	養豚経営の分析・診断 事例研究					1	外部講師			
2	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
3	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
4	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
5	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
6	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
7	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
8	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
9	養豚経営の分析・診断 事例研究					1				
10	試験①					1				
11	経営計画の重要性、目的					1	農業大学校職員			
12	営農計画の年次的重点、基本的考え方					1				
13	営農設計の作成手順、内容					1				
14	年次別家畜の飼養計画内訳					1				
15	営農計画成果品提出					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y202n	肉用牛経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の肉用牛繁殖及び肥育経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し、施設や生産管理システムについての知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	研修報告書（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり：40点 提出なし：0点</li> <li>・内容 A（良い）50点 B（普通）20点 C（悪い）0点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1	農業大学校職員		
2	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
3	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
4	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
5	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
6	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
7	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
8	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
9	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
10	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
11	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
12	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
13	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
14	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
15	肉用牛繁殖・肥育経営の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y202r	酪農経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	・県内外の酪農経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の酪農経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し施設や生産管理システムについての知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	研修報告書 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出</li> <li>提出あり：40点</li> <li>提出なし：0点</li> <li>・内容</li> <li>A (良い) 50点</li> <li>B (普通) 20点</li> <li>C (悪い) 0点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1	農業大学校職員		
2	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
3	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
4	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
5	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
6	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
7	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
8	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
9	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
10	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
11	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
12	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
13	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
14	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
15	酪農経営の優良・最新事例研究 (校外学習)					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								



## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y202b	養豚経営の事例研究	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	・県内外の養豚経営について、優良・最新事例の現地調査を実施する。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内外の養豚経営について、優良・最新事例の現地調査を実施し、施設や生産管理システムについての知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	研修報告書（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出 提出あり：40点 提出なし：0点</li> <li>・内容 A（良い）50点 B（普通）20点 C（悪い）0点</li> </ul>			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1	農業大学校職員		
2	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
3	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
4	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
5	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
6	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
7	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
8	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
9	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
10	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
11	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
12	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
13	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
14	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
15	養豚の優良・最新事例研究（校外学習）					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y203n	肉用牛の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、肉用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で肉用牛の飼養管理技術について知識・技術を習得させるとともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。									
使用教材	・日本標準飼料分析表、日本飼養標準（肉用牛）、講師作成資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	各専攻の飼養管理マニュアル①					1	農業大学校職員			
2	各専攻の飼養管理マニュアル②					1				
3	各専攻の飼養管理マニュアル③					1				
4	各専攻のリスク分析①					1				
5	各専攻のリスク分析②					1				
6	各専攻のリスク分析③					1				
7	肉用牛繁殖の給与設計					1				
8	肉用牛肥育の給与設計					1				
9	育成牛の給与設計					1				
10	子牛の給与設計					1				
11	試験①					1				
12	酪農の最新の試験研究と成果					1	外部講師			
13	試験②					1				
14	肉用牛の最新の試験研究と成果					1				
15	試験③					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y203r	乳用牛の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果を学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・農場における飼養状況に応じて課題を取り上げ、ゼミ形式で乳用牛の飼養管理技術について知識・技術とともに、最新の試験研究成果に関する知識を習得する。									
使用教材	・日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳用牛）、講師作成資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	各専攻の飼養管理マニュアル①					1	農業大学校職員			
2	各専攻の飼養管理マニュアル②					1				
3	各専攻の飼養管理マニュアル③					1				
4	各専攻のリスク分析①					1				
5	各専攻のリスク分析②					1				
6	各専攻のリスク分析③					1				
7	搾乳牛の給与設計①					1				
8	搾乳牛の給与設計②					1				
9	子牛・育成牛の給与設計③					1				
10	乾乳牛の給与設計④					1				
11	試験①					1	外部講師			
12	酪農の最新の試験研究と成果					1				
13	試験②					1				
14	肉用牛の最新の試験研究と成果					1				
15	試験③					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y204	育種と繁殖Ⅱ		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期			
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～5月			
科目の概要	<p>・育種では、家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容を学ぶ。繁殖では繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみとともに、家畜人工授精技術について学ぶ。</p>											
講師名	・農業大学職員						実務経験のある教員等による授業科目					
到達目標	<p>・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。          ・家畜人工授精に関する知識を習得する。</p>											
使用教材	<p>・家畜人工授精講習会テキスト          ・講師作成資料</p>											
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）				
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等				
授業の計画（授業の回数やスケジュール）												
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考					
1～2	神経・内分泌（内分泌概論） ●（繁殖生理）繁殖機能に係るホルモン及び神経					2	農業大学校職員					
3～4	神経・内分泌（繁殖に関連する主なホルモン） ●（繁殖生理）性ホルモンの種類及び作用					2						
5	試験① ●（繁殖生理）					1						
6～13	繁殖生理（発情周期とその制御・調節機構） ●（繁殖生理）繁殖の周期性及び性成熟、発情周期に伴う生殖器及び行動の変化、受精及び受精卵の発育 ●（種付け理論）授精（交配）適期、（妊娠と分娩）雌生殖器内における精子及び卵子の移動並びにその機能の変化					8						
14	試験② ●（種付けの理論）（妊娠と分娩）					1						
15	精子生理（性成熟と繁殖供用） ●（精子生理）精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状					1						
16～17	精子生理（精子の形成と成熟） ●（精子生理）精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状					2						
18～20	精子生理（精子の形態と機能） ●（精子生理）精子の形態及び構造、精子の機能、精液性状及び精子機能に関与する要因					3						
21	精子生理（交尾・射精と精液） ●（繁殖生理）射精の機序					1						
22	試験③ ●（精子生理）					1						
23～29	人工授精技術Ⅲ（精液精子検査法）（演習） ●（精液精子検査法）精液及び精子の検査法					7						
30	試験④ ●（精液精子検査法）精液及び精子の検査法					1						
授業時間外に必要な学修	特になし											
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。											

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y205	豚の疾病と衛生	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	・豚疾病の種類とその予防・治療方法及び養豚現場におけるバイオセキュリティ対策について学ぶ。									
講師名	・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・繁殖性向上のための最新の考え方を習得する。									
使用教材	・講師作成資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際					1	外部講師			
2	養豚現場におけるバイオセキュリティの実際					1				
3	試験①					1				
4	豚疾病の種類					1				
5	豚疾病の種類					1				
6	豚疾病の予防					1				
7	豚疾病の予防					1				
8	豚疾病の治療					1				
9	豚疾病の治療					1				
10	豚繁殖性向上対策（豚の繁殖サイクル）					1				
11	豚繁殖性向上対策（繁殖性向上のための飼養管理）					1				
12	豚繁殖性向上対策（繁殖性向上のための飼養管理）					1				
13	豚繁殖性向上対策（繁殖豚の台帳管理、見える化）					1				
14	豚繁殖性向上対策（繁殖障害の原因と改善方法）					1				
15	試験②					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y206	削蹄講習		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	2	時間数	21	開講時期	7月
科目の概要	・家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。								
講師名	・外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削蹄の技術を習得する。</li> <li>・2級認定削蹄資格を取得する。</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛削蹄入門</li> <li>・講師準備資料</li> </ul>								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		受講態度（減点）			
	基準	講習会試験の採点による。	講習会試験の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・80%未満 0</li> </ul>		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	削蹄の基礎について					1	外部講師		
2	削蹄の基礎について					1			
3	削蹄実習					1			
4	削蹄実習					1			
5	削蹄実習					1			
6	削蹄実習					1			
7	削蹄実習					1			
8	削蹄実習					1			
9	削蹄実習					1			
10	削蹄基礎知識					1			
11	削蹄基礎知識					1			
12	削蹄基礎知識					1			
13	削蹄基礎知識					1			
14	削蹄基礎知識					1			
15	削蹄基礎知識 試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y206	削蹄講習		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	2	時間数	21	開講時期	7月
科目の概要	・家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。								
講師名	・外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削蹄の技術を習得する。</li> <li>・2級認定削蹄資格を取得する。</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛削蹄入門</li> <li>・講師準備資料</li> </ul>								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		受講態度（減点）			
	基準	講習会試験の採点による。	講習会試験の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・80%未満 0</li> </ul>		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	削蹄実習					1	外部講師		
2	削蹄実習					1			
3	削蹄実習					1			
4	削蹄実習					1			
5	削蹄実習					1			
6	削蹄実習 試験					1			
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y207	家畜の衛生と環境	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・家畜の飼養管理上基礎となる家畜衛生の意義と疾病診断、予防について学ぶ。また、畜産環境を取り巻く現状と課題、家畜排せつ物処理技術とともに環境と調和した資源循環型畜産の意義と重要性を学ぶ								
講師名	・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜衛生及び畜産環境の情勢と課題及びその対策技術に関する知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制					1	外部講師		
2	世界及び日本における疾病の発生状況と防疫体制					1			
3	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制					1			
4	宮崎県における疾病の発生状況と防疫体制					1			
5	試験①					1			
6	家畜衛生の目的と疾病対策					1			
7	家畜衛生の目的と疾病対策					1			
8	疾病の簡易診断法と予防接種					1			
9	疾病の簡易診断法と予防接種					1			
10	試験②					1			
11	家畜排せつ物の適正処理と利用					1			
12	堆肥化処理技術と施設					1			
13	汚水処理技術と施設					1			
14	悪臭対策					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								



## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y211	畜産指導演習	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月	
科目の概要	・2年生が各専攻の飼養管理や農場のルール等について指導できるよう演習する。									
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・2年生が各専攻の飼養管理や農場のルール等について適切に指導できる。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（80点）			出席率（20点）			受講態度（減点）		
	基準	各専攻の飼養管理やルール等を理解し、1年生に適切に指導できているかをチェックし、100点満点の評価を行うが80%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	畜産指導演習方法と注意事項					1	担当講師： 農業大学校職員			
2	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
3	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
4	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
5	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
6	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
7	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
8	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
9	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
10	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
11	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
12	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
13	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
14	2年生が各専攻の飼養管理やルール等を1年生に指導					1				
15	畜産指導演習の反省と助言					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする									

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y212	畜産の新技术		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～12月
科目の概要	・畜産における新技术開発の現状や課題について理解させるとともに、バイオテクノロジーの歴史、技術の意義、採卵、検卵、移植までの一連の知識と技術に加え、宮崎県における受精卵移植技術の利用と普及状況について学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産における新技术や受精卵移植に関する知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	畜産における新技术開発の現状と課題（大家畜）					1	外部講師		
2	畜産における新技术開発の現状と課題（飼料、豚）					1			
3	畜産における新技术開発の現状と課題（鶏、家畜排せつ物） 試験①					1			
4	体内受精卵移植技術の沿革と制度、県内における歴史と普及					1	農業大学校職員		
5	体内受精卵移植技術の実際の手順（採取、処理、移植）					1			
6	体外受精卵移植技術の概要 試験②					1			
7	受精卵の採卵（演習）					1	外部講師		
8	受精卵の採卵（演習）					1			
9	受精卵の採卵（演習）					1			
10	受精卵の採卵（演習）					1			
11	受精卵の採卵（演習）					1			
12	受精卵の採卵（演習）					1			
13	受精卵の採卵（演習）					1			
14	受精卵の採卵（演習）					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y212	家畜の解剖		学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	・家畜の体の構造について骨格、筋肉、臓器について総括的に理解させるとともに、削蹄を行う上で必要な肢蹄の解剖学を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・家畜の体の構造について理解する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精テキスト ・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	家畜の骨格					1	外部講師		
2	家畜の骨格					1			
3	家畜の骨格					1			
4	家畜の筋肉					1			
5	家畜の筋肉					1			
6	家畜の臓器					1			
7	家畜の臓器					1			
8	家畜の肢蹄の構造					1			
9	家畜の肢蹄の構造					1			
10	試験①					1			
11	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成					1	農業大学校職員		
12	生殖器解剖（生殖器の分類と発生） ●〈生殖器解剖〉精子形成及び卵子形成					1			
13	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能					1			
14	生殖器解剖（生殖器の形態及び機能） ●〈生殖器解剖〉生殖器の形態及び機能					1			
15	試験② ●〈生殖器解剖〉					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y213	畜産物の加工と流通	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	・食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴及び県産畜産物流通の現状と課題について学ぶ。また、乳肉製品の製造演習を通して、各段階での乳及び食肉の変化や理論を学ぶ。								
講師名	・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・乳肉加工の製造の基礎を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義ごとの試験・レポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴					1	外部講師		
2	食品関連法の基礎知識、乳肉加工の種類と特徴					1			
3	試験①					1			
4	肉加工品の製造（演習）		場所：調理室、肉加工室			1			
5	肉加工品の製造（演習）					1			
6	肉加工品の製造（演習）					1			
7	肉加工品の製造（演習）					1			
8	肉加工品の製造（演習）					1			
9	試験②					1			
10	乳加工品の製造（演習）		場所：調理室			1			
11	乳加工品の製造（演習）					1			
12	乳加工品の製造（演習）					1			
13	乳加工品の製造（演習）					1			
14	乳加工品の製造（演習）					1			
15	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M202	スマート農業活用	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	後期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	11月～12月	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農機を使いこなすための基本となる計測データの内容と解析方法を学ぶ。</li> <li>・ドローン等ICT機器を操作する際の法令・ルールについて学ぶ。</li> </ul>									
講師名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師</li> <li>・農業大学校職員</li> </ul>						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの内容と解析方法を習得させる。</li> <li>・卒業後、現場においてスマート農業を実践できる基本的なスキルを習得させる。</li> </ul>									
使用教材	・講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度(減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	畜産経営におけるデータの活用（肉用牛）					1	外部講師			
2	畜産経営におけるデータの活用（酪農）					1				
3	試験①					1				
4	畜産経営におけるスマート農業の開発①					1	外部講師			
5	畜産経営におけるスマート農業の開発②					1				
6	畜産経営におけるスマート農業の開発③					試験②				1
7	農業大学校における環境制御型牛舎のデータ分析と活用					1	外部講師			
8	農業大学校における環境制御型牛舎のデータ分析と活用					試験③				1
9	自動操舵システム等スマート農業の活用					1	外部講師			
10	自動操舵システム等スマート農業の活用					試験④				1
11	ドローン操縦基礎講座・演習					1	農業大学校職員			
12	ドローン操縦基礎講座・演習					試験⑤				1
13	酪農経営におけるスマート農業の活用事例					1	外部講師			
14	酪農経営におけるスマート農業の活用事例					1				
15	酪農経営におけるスマート農業の活用事例					試験⑥				1
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施	原則として実施しないが、特別な事情がある場合例外とする。その後別途通知する。									

目的等 基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は中止すること。この後が迅速である。
-----------	--

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M203	農政施策	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～11月
科目の概要	・畜産の現状と課題、主要施策及び関係法規、制度について広く学習する。								
講師名	外部講師、農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国及び宮崎の畜産の現状とその施策を理解する。</li> <li>・家畜人工授精に関する知識を習得する。</li> </ul>								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	世界及び日本における畜産の現状と課題					1	外部講師		
2	宮崎県における畜産の現状と課題					1			
3	酪農及び肉用牛生産振興法、家畜商法、家畜取引法 試験①					1			
4	肉用牛情勢					1	外部講師		
5	肉用牛関係主要施策					1			
6	肉用牛関係価格安定制度、牛トレーサビリティ制度 試験②					1			
7	酪農・養豚・養鶏情勢					1	外部講師		
8	酪農・養豚・養鶏関係主要施策					1			
9	酪農・養豚・養鶏関係価格安定制度 試験③					1			
10	飼料情勢					1	外部講師		
11	飼料・家畜排せつ物関係主要施策					1			
12	飼料関係価格安定制度、飼料安全法、家畜排せつ物法 試験④					1			
13	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法					1	農業大学校職員		
14	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法					1			
15	家畜人工授精の制度と関係法規 ●〈関係法規〉家畜改良増殖法、家畜伝染病予防法、獣医師法 試験⑤					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

## 令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M204	農業生産工程管理Ⅱ	学科名	畜産学科	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	一般	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。								
講師名	外部講師、農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得する。</li> <li>・GAP維持・更新審査にて対応できる知識を習得する。</li> </ul>								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・95%以上 1.0</li> <li>・90%以上95%未満 0.9</li> <li>・80%以上90%未満 0.8</li> <li>・70%以上80%未満 0.7</li> <li>・70%未満 0</li> </ul>			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	GAPの基礎①					1	外部講師		
2	GAPの基礎②					1			
3	GAPの認証と導入					1			
4	ひなたGAPの概要					1			
5	リスク分析の考え方					1			
6	生産工程におけるリスク分析					1			
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					1			
8	労働安全のリスク分析					1			
9	ひなたGAPチェックリストの解説①					1			
10	ひなたGAPチェックリストの解説②					1			
11	GAP現地研修（農大校ほ場）					1			
12	GAP現地研修（農大校ほ場）					1			
13	認証制GAPの解説①					1			
14	認証制GAPの解説②					1			
15	試験					1	農業大学校職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない。								



令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	F201	専攻実習Ⅱフ)		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期 後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	10	時間数	300	開講時期	4月～1月
科目の概要	様々な手法により農産物、畜産物の加工を行い、加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 菊池 祐一郎 畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅 喜成						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	○農産物、畜産物の加工技術及び栽培から加工、販売までの6次化に向けた知識と技術を習得する。 ○食品に関する基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識(40点)	技能・技術(40点)	出席点(20点)			学習態度(減点)		
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して加工知識や技術の習得を判断する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない実習態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～30	農大の農畜産物の栽培管理について(6次化に向けた取組)						30		
31～90	農大産の作物を使った焼菓子、そうざい製造						60		
91～130	農大産の作物を使ったジャム類(イチゴ、マーマレード等)の製造						40		
131～200	農大産の牛乳を使ったアイスクリーム、乳製品の製造						70		
201～240	ベーコン、ソーセージ、燻鶏等の肉加工品製造						40		
241～300	プロジェクト学習に関連した加工実習						60		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	F202	専攻特別実習Ⅱ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前・後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	4月～12月
科目の概要	フードビジネス専攻において必要な資格取得に関する学習や学生模擬会社の販売実習、専攻での特別講義等を行う								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 准教授 菊池 祐一郎							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	資格取得のための講習により高度な知識を身につけると共に、学生出資会社の販売活動などを通じて、社会的な実践力を身につける。								
使用教材	資格取得のためのテキスト								
成績評価	方法	知識(40点)	技能・技術(40点)	出席点(20点)			学習態度(減点)		
	基準	専攻特別実習に関する記録簿の記入状況と活動内容の確認により評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない実習態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～10	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	4月	
11～25	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	5月	
26～40	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	6月	
41～55	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	7月	
56～65	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	8月	
66～80	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						15	9月	
81～90	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	10月	
91～110	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						20	11月	
111～120	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習						10	12月	
授業時間外に必要な学修	1年間で取得する資格等を決定し、準備する。								
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								

令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	F206	食品関連企業実習		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	9月～11月
科目の概要	食品関連企業での実習を通じて、農大では達成できない高度な加工技術や商品開発について学ぶ。								
講師名	農業大学校 農学科フードビジネス専攻 今東 香							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	食品関連企業での実習を通じて、高度な加工技術や商品開発について知見や経験を深める。								
使用教材	各企業が準備する資料								
成績評価	方法	知識(50点)	技能・技術(40点)	出席点(10点)		学習態度(減点)			
	基準	食品関連企業からの評価表や毎日記入する実習レポートの内容から評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない実習態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0			
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～6	食品加工業での実習心構え、計画作成 研修企業の事前調査等					6	9月 5日(月)1～3限 9月13日(火)4～6限		
7～54	食品関連企業実習					48	10月11日(火)、14日(金) 17日(月)、24日(月)、25日(火) 27日(木)、31日(月) 11月1日(火))		
55～57	研修まとめ・発表資料作成・お礼状					3	11月2日(水)1～3限		
58～60	発表					3	11月2日(水)4～6限		
授業時間外に必要な学修	実習先での研修日誌を作成すること。食品加工業の業績や内容を情報収集し、熟知した上で研修に参加すること。								
再試験及び補習対象の実施基準	食品関連企業からの評価表、毎日記入する実習レポートの内容から評価する。 不十分な者については、課題を与え、レポートを再提出させ、再評価する。								

令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	F207 商品開発と流通販売Ⅱ	学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	商品開発の基礎知識や国内における流通販売について広く学ぶと共に、農業ビジネスを具体的にイメージ出来るよう顧客が買いたくなる「商品」や「サービス」についてグループディスカッションを通じて学ぶ。								
講師名	外部講師:アグリビジネスパートナー 高津佐 和宏 農学大学校 農学科フードビジネス専攻 今東 香					実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	農産物の流通販売、それを活用した商品開発に関する知識を学び、販売戦略を計画的に実践できる力を身につけることを到達目標とする。								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識(90点)	出席点(10点)			学習態度(減点)			
	基準	外部講師の講義終了後のレポート及び講義終了後の評価テストにより評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない授業態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0			
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～2	農畜産物の加工品を作って売るとはということか?					2	4月14日(木)4, 5限		
3～4	「誰に買ってもらうのか?」から考える商品開発					2	4月25日(月)4, 5限		
5～6	SNSマーケティングについて					2	5月10日(火)4, 5限		
7～8	売れる商品開発の方法					2	5月31日(火)4, 5限		
9～10	実践者から学ぶ～ケーススタディ①～					2	6月6日(月)4, 5限		
11～12	実践者から学ぶ～ケーススタディ②～					2	6月10日(金)4, 5限		
13～15	ロールプレイング～商品開発と流通販売を考える～ テストまたはレポート					3	6月14日(火)4, 5, 6限		
授業時間外に必要な学修	販売計画を作るために必要な市場調査(商品価格)やイベント時における消費者の反応についてまとめておくこと。学んだことをレポートにまとめる。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験及び補習は行わない。								

## 令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G202 食品化学Ⅱ			学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前・後期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～9月	
科目の概要	食品製造における重要管理点(CCP)を科学的根拠に基づき監視するため、測定機器(水分活性装置、pH測定等)の使用方法について学ぶ。また、味覚(5味)や官能評価の方法について知識を深め、安全で消費者嗜好に基づく商品開発に関する知識を深める。さらに食べ物のおいしさを左右する調理と酵素の関わりについて学ぶ。									
講師名	外部講師 食品アドバイザー 福山 明子 農学科 フードビジネス専攻 今東 香						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	食品製造における危害要因や重要管理点を理解し、科学的根拠に基づく監視方法を学ぶため、測定機器の取扱方法を身に付ける。また、商品の官能評価方法など基礎的な知識を身につける。									
使用教材										
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)			学習態度(減点)		
	基準	講義終了後、レポートにより評価する。評価テストを実施し、評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない受講態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						時間	備 考		
1～2	食品製造における重要管理点(CCP)と科学的根拠の測定 ・食品が劣化する要因と品質保持						2	5月16日(月) 4～5限		
3	食品製造における重要管理点(CCP)と科学的根拠の測定 ・食品包装資材について						1	5月18日(月) 2限		
4～6	食品製造における重要管理点(CCP)と科学的根拠の測定 ・工程・品質管理に用いられる機器類を使用した演習 (糖度、塩分、PH、水分活性)						3	5月24日(火)4～6限		
7～9	官能評価研修 ・5味の識別試験 ・味覚による閾値の測定						3	6月28日(火)4～6限		
10～12	食物の酵素に関する実験 ・さつまいもの加熱方法の違いによる甘味の変化に関する実験						3	10月3日(月)4～6限		
13～14	各自が製造した食品の測定(糖度、塩分、PH、水分活性)						2	10月4日(火)4～5限		
15	テスト						1	10月4日(火)6限		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。									

## 令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G203	食品製造実習Ⅱ	学科名	全学科 フードビジ ネス	学年	2年	学期	前期 後期	
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月～1月
科目の概要	農産物、畜産物を使った加工技術の習得を通して、商品開発の手法を学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。								
使用教材	食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識(40点)	技能・技術(40点)	出席点(20点)			学習態度(減点)		
	基準	農産物、畜産物を使った加工品を製造することにより加工技術の習得を判断する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない実習態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
回	内 容					時間	備 考		
1～12	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識(加工室の冷蔵庫温度管理、加工室の細菌検査等) 食品表示に関する基礎知識(加工品のラベル作成等)					12			
13～32	農大産の野菜・作物の加工品製造(ピューレ、パウダー製造) 農大産の小麦の加工品製造(パン、焼き菓子等) 農大産の果樹の加工品製造(ドライフルーツ、グミ等)					20			
33～68	農大産の畜産物を使った肉加工品、乳加工品の製造とHACCPシステムに基づく製造工程の検証(ベーコン、ソーセージ、チーズ、アイスクリーム等)					36	【乳加工】 1回目:6月23日(木)24日(金) 2回目:7月7日(木)8日(金) ※計24時間 外部講師:弓削 【肉加工】 :7月14日(木)15日(金) ※計12時間 外部講師:ミヤチク		
69～84	プロジェクト学習に関連した加工品製造実習					16			
85～90	農大産の農畜産物を使った加工品製造実習(各自製造)					6			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G205	6次産業化Ⅱ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前・後期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～9月	
科目の概要	国や宮崎県内における6次産業化の施策等について学ぶ。 農業大学校で生産される農産物を使い製造に取り組むことで6次産業化に必要な知識を習得する。									
講師名	外部講師 宮崎県農業振興公社 新農業支援課 田中紀子 外部講師 食品アドバイザー 福山 明子 農業大学校 フードビジネス専攻 今東 香							実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	6次産業化に関する知識や加工技術について学び、農業大学校で生産される農畜産物を用いて加工、商品化、販売を行うための事業計画を立て、実践できる力を身につける。									
使用教材	講師が配布する資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）		
	基準	講義後に、レポートを提出する。提出状況と後半に行う事業計画の作成により知識の習得状況を把握し評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1～3	農大で取れる野菜の一次処理の方法、保存について一次処理済み農産物を使った加工品の製造と理論						3	6月10日（金）1～3限		
4～6	農大で取れる野菜の一次処理の方法、保存についてたまねぎドレッシングの製造						3	6月21日（火）1～3限		
7～12	農大産農産物を原料に使用した製造実習（琥珀糖）						6	7月1日（金）1～3限 7月4日（月）3限 7月5日（火）4～5限		
13	国や宮崎県内における6次産業化の施策等のポイントについて						1	9月8日（木）4限 外部講師 農業振興公社 田中紀子氏		
14～15	事業計画の作成演習、発表、まとめレポート作成						2	9月8日（木）5～6限 今東 香		
授業時間外に必要な学修	事業計画作成に向けた、資料準備									
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出が合格点に達しない場合は、再度テストを実施する。									

## 令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G206	微生物活用Ⅱ	学科名	農学科 畜産学科 フード専攻	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義・実験	区分	選択	単位数	1単位	時間数	15時間	開講時期	5月～7月
科目の概要	農大農場の生産現場を学び、そこで生産される農畜産物を原料とし微生物を活用した食品の加工を学ぶ。								
講師名	フードビジネス専攻 今東 香、眞茅 喜成						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	○微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ○実験・実習を通し、微生物を使った食品製造を習得する。								
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他								
成績評価	方法	知識(40点)	学習態度(50点)				出席率(10点)		
	基準	14時間の講義・実験終了後、100点満点で評価試験を実施し、得点の40%を評価点とする。	主に実験において態度をA・B・C・D・Eの5段階で評価する。(1実験10点) A:率先し意欲的・積極的に取り組む B:まじめに取り組む C:普通に取り組む D:意欲がなく積極的に取り組まない E:まじめに取り組まず実験を妨害 A:9～10B:7～8C:5～6D:3～4E:1～2				出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～3	【ヨーグルト】					1	4月26日(火)4～6限		
						1			
						1			
4～6	【甘 酒】					1	5月9日(月)4～6限		
						1			
						1			
7～9	【天然酵母パン】						6月2日(木)4～6限 6月3日(金)1～3限		
10～12	【天然酵母パン】					1	7月4日(月)4～6限		
						1			
						1			
13～15	【ぬか漬】					2	7月11日(月)4～6限		
	評価試験					1			
授業時間外に必要な学修	○実験が主の授業であることから、全てを受講する事を基本とする。(公欠・病欠は除く) ○講義資料の復習と保管に取り組む。 ○それぞれの実験・実習にふさわしい適切で清潔な服装で実験に臨む。 ○検索等で必要なとき以外の講義・実習中のスマホ使用は禁止する。(休憩中は除く)								
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当+B22:AC31たる場合以外、原則として再試験は実施しない。								



## 令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	G207	新商品開発		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	6月～7月	
科目の概要	フードビジネス関連機関(宮崎市みやPEC推進機構)や調理・食品製造を学ぶ大学や高等学校との連携による商品開発により、自ら商品を生み出す実践力を身につける。									
講師名	外部講師 デザイナー(有限会社豊緑園) 森本亜矢氏 畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	宮崎県内におけるフードビジネスの活性化及び新商品開発を目標に、これまでに培った加工技術や商品開発の知識、消費者へのアンケート調査など自ら考え行動することが出来る。									
使用教材	食品製造実習関連資料									
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)			学習態度(減点)		
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して製造技術の習得を判断するとともに、レポートにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない授業態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	講義の進め方の説明					1				
2～12	みやざきのフードビジネス 活性化 宮崎市外郭団体 みやPEC推進機構主催 スイーツプロジェクトに関する活動実践					11	7月上旬までにレシピ考案 試作品完成を目処			
13～14	仮題)パッケージデザインの検討手法について					2	6月7日(火)4, 5限			
15～16	仮題)商品ディスプレイの手法について					2	6月27日(月)4, 5限			
17～18	仮題)POP作成におけるポイント、画像撮影の方法について					2	7月12日(火)4,5限			
19～29	本校食材を用いた新商品開発 南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科との連携					11				
30	レポート					1				
授業時間外に必要な学修	スイーツプロジェクトについては、各自でレシピを考案すること。									
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。									

令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	M204	農業生産工程管理Ⅱ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前後期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月	
科目の概要	食品衛生法等の一部改正(H30年6月13日公布)により全ての食品等事業者は、原則としてHACCPに沿った衛生管理手法が必要となった。本科目では、食品製造における一般的衛生管理やHACCP、また、企業におけるFSSC22000等の食品安全システム認証について知識を深め、食の安全性に関して衛生管理や品質管理を徹底し安全・安心の商品を消費者に提供することの重要性を学ぶ。									
講師名	・外部講師 (株)HACCP ONE 川越おもと氏 ・農学科フードビジネス専攻 今東 香						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	学生が、農畜産物を利用した加工品を製造する中で、HACCPによる衛生管理やHACCPの考え方を取り入れた衛生管理計画に基づき、安全な食品製造の重要性について理解することを到達目標とする。									
使用教材	講師が準備する資料 HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書(発行:厚生労働省)									
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)			学習態度(減点)		
	基準	レポート及び講義終了後にテストを行い、知識の習得状況により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない実習態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						時間	備 考		
1～3	食品製造における衛生管理について 一般的衛生管理項目 小テスト						3	4月28日(木)4～6限		
4～6	食品製造における品質管理について 農大の食品加工室における衛生管理について 小テスト						3	5月13日(金)4～6限		
7～9	農大における衛生管理プラン作成指導 小テスト						3	5月17日(火)4～6限		
10～15	食品加工エリアの衛生管理・整理整頓に関する優良事例研究						6	7月26日(火)1～6限		
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び小テストでの反復学習									
再試験及び補習対象の実施基準	管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。									

令和4年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M210	卒業論文(フ)		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	4	時間数	60	開講時期	11月～1月
科目の概要	フードビジネスに関する研究テーマを自ら設定し、テーマに即した調査や実証等の研究を行うと共にプロジェクト活動として発表し、研究報告書として卒業論文にまとめる。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 菊池祐一郎 畜産学科フードビジネス専攻 眞茅喜成						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	学生が、主体的にフードビジネスに関するプロジェクトテーマを設定し、自らの実施計画、進行管理を行い、実証活動をまとめプロジェクト活動の発表を行う。また、研究報告書を作成することにより、課題解決に向けた一連のスキルを習得することを到達目標とする。								
使用教材	フードビジネス専攻で配布された資料、各自テーマに沿った図書や文献等								
成績評価	方法	テーマ設定 (10点)	研修内容 (20点)	データ整理 (20点)	論点整理 (20点)	自主的取組 (30点)			
	基準	学生が主体的にフードビジネスに関するテーマを設定し計画を立てることが出来る。	計画にそった実習や実験を自ら進行管理を行い、文献やインターネット等の情報を活用し、研究を進めることができる。	データ整理の手法は適切であるか。プロジェクト発表内容・態度についても評価する。	実験データや文献等を活用し、論点を整理した論文となっているか。	意欲的に研究に取り組めたか。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～6	テーマ設定、テーマに関する基礎調査						6		
7～9	調査まとめ・研究方法の確定						3		
10～40	調査および実証						31		
41～50	プロジェクト活動の発表						10		
51～60	卒業論文の作成						10		
授業時間外に必要な学修	日頃から、自身の研究に関連する情報について、図書や統計データ等、調査事例や卒業論文などについて研究する。また、プロジェクト活動のためのスキルを向上させるため、プレゼンテーション能力の向上に向けた自主学習を実施する。								
再試験及び補習対象の実施基準	補講や再試験は実施しない。								

令和4年度 授業計画書[シラバス]

科目名	T204 F204	会社経営 (フード必修・他選択)		学科名	全学科 フードビジネス	学年	2年	学期	前・後期
授業の方法	講義	区分	選択 必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～1月
科目の概要	農大の模擬会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 今東香、菊池祐一郎 畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成 外部講師						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)		学習態度(減点)		
	基準	学生出資会社の運営に関する意見 交換会やグループで行う経営ゲーム への取り組みによる経営知識の習 得状況を受講後のレポート内容によ り評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数と する。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階 で評価し、20点を上限として以下 の係数を乗じて減点する。 A:問題のない授業態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法 今年度の経営目標、総会資料より					1	4月13日(水)1限		
2	模擬会社に関する研究 (経理状況の確認 (各専攻ごと))					1	4月20日(水)1限		
3	イベント販売等(農大市他)の準備、運営方法に関する学習					1	4月27日(水)1限		
4	模擬会社に関する研究 (契約書類に関すること、販売計画の立て方について)					1	5月18日(水)1限		
5	模擬会社に関する各組織の運営方法について					1	5月25日(水)1限		
6	模擬会社に関する研究 (模擬会社の概要について)					1	6月1日(水)1限		
7	イベント販売等(農大市他)の準備、運営方法に関する学習					1	6月8日(水)1限		
8~10	模擬会社に関する研究 (経営者に必要な資質について 体験ゲーム)					3	6月22日(水)1,2,3限		
11~13	模擬会社に関する研究 (経営者マインドが育つ体験ゲーム)					3	6月29日(水)1,2,3限		
14~16	模擬会社に関する研究 (経営者マインドが育つ体験ゲーム)					3	7月13日(水)1,2,3限		
17	R4年度前期の売上会計報告					1	7月27日(水)1限		
18	外部講師 (講演) ふるさと納税について 高鍋町役場 財政経営課 ふるさと納税担当者 <b>【2年生のみ】</b>					1	9月7日 1限		
19	イベント販売等(農大市他)の準備、運営方法に関する学習					1	9月14日 1限		
20	【1,2年合同】 ビジネスマナー① (販売の心得)					1	9月21日(水)1限		
21	【1,2年合同】 ビジネスマナー② (演習)					1	10月5日(水)1限		
22	会社経営について(講演) 農大祭に向け参考となる内容(案) 商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイント他					2	10月26日(水) 2,3限		
23									
24	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について					2	11月9日(水) 1,2限		
25									
26	イベント販売等(農大市他)の準備、運営方法に関する学習					1	12月7日(水)1限		
27	【1,2年合同】 学生出資会社の新役員体制づくり					2	12月14日(水)1,2限		
28									
29	【1,2年合同、全学生対象】令和4年度 定時株主総会					2	1月11日(水)4,5限		
30									
授業時間外に 必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習 対象の実施 基準	原則として再試、補講は認めない。								